

第5学年2組 社会科 学習構想案

日 時 令和6年6月27日(木)第5校時
場 所 体育館
指導者 教諭 西川 耕平

1 単元構想

単元名	未来を支える食料生産「米づくりのさかんな地域」(教育出版 「小学社会5」 P66~87)
単元の目標	(1) 我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 稲作に関わる人々の働きを多角的に考える力、稲作に関わる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。 (3) 我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	
農家の方々が、地域の自然条件を生かしながら、様々な工夫や努力をしておいしく安心して食べられる米をつくっていることや、その米をより多くの消費者に届けるためには、流通に関わる人たちの働きや消費量を増やすための新しい取組も大切であることを、基礎的資料から正しく読み取ったり、調べたことをもとに自分の考えをまとめたりしようとする児童	
本単元で働かせる見方・考え方	
稲作の中で進められている工夫や努力、取組とそれぞれの目的に着目し、米づくりや耕地の昔と今を比較・分類したり、農家の方々の思い、日本の稲作が抱える課題など総合したり、米づくりの変化や課題と関係する人々の工夫や努力を関連づけたりすること	
本単元で特に育成を目指す学び方のスキル	
★1「コミュニケーション」	
「社会の目」「社会の考え方」を意識して、自分の考えを伝えたり分からないところを尋ねたりしながら、視点を広げて、さらに深い考えを再構築しながら課題解決に向かっているか。	★2「振り返り」
	「分かったこと・分からなかったこと(学習内容)」「自分の学習の進め方で良かったこと・次頑張りたいこと(学び方)」を具体的な言葉にして振り返りを行っている。

指導計画(11時間取扱い 本時5/11時間)

次	主な学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが食べている米はどこで生産されているのかに着目して、米の山地の分布を捉える。【知①】 ・ 新潟県南魚沼市の自然条件が米づくりに適していることに着目して、その中で行われている米づくりについて学習問題をつくる。【知②思①】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 【学習問題】農家の工夫や努力、農家を支える人々の働きを調べたり、これからの米づくりに大切なことを考えたりして、熊本県や天草市の「米づくりレベルアップ提案会」をしよう。 </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米づくりに携わる人々がどのような工夫や努力をして米を生産しているか予想し、その予想をもとに学習計画を立て、追求の見通しをもつ。【主①】 ・ 1年間の米づくりの作業の流れに着目して、種もみの準備から収穫まで、様々な作業を行う必要があることを捉える。【知①】 ★南魚沼市の米づくりの中で取り組まれている工夫に着目して、生産者の思いや願いを考える。(本時)【思②】 ・ 米が生産者から消費者のもとに届けられる様子に着目して、米の出荷や輸送、販売に携わる人々の働きや、米の値段に含まれる費用について捉える。【知②】 ・ 米づくりが改善されてきた様子に着目して、短い労働時間で多くの米を生産できるようになった理由を考える。【思①知①】 ・ 米づくりを取り巻く変化に着目して、米の生産量・消費量の減少、農業従事者の減少、競争の激化といった日本の米づくりの課題を捉える。【知①】 ・ 米づくりの課題を解決するための取組や人々の協力関係に着目して、これからも生産を続けていこうとする農家の人たちの思いについて考える。【思②】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を整理して、米づくりを支える様々な条件や人々の働き、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解し、これからの米づくりについて考える。【思②主②】

2 児童の学びの実態と教師の手立て

【学び方のスキル】「コミュニケーション」については、課題解決のために必要な情報を得たり確かな考えを形成するために他者との協働が必要であることや多様な考えにふれることの価値について理解ができている児童はいる。しかし、一方的に考えを出し合って終わるなど、考えを広げたり深めたりするための協働を行うことが難しい児童が多い。キーワード(考え方)を提示したり、一斉・個別両方の指導で考えの交流方法や質問の仕方を継続的に教えたりするなどして、児童の説明する力を養い、自ら考えを広げ、深められるようにしたい。「振り返り」については、学習内容と学び方両面から振り返ることができない児童、何が分かっていて何が分からないのか記述することが難しい児童、一時間ごとの自分の学び方の良さや課題点が把握できない児童などがある。学習内容に関しては、本時のめあてに対する自分の考えを言語化できるよう、振り返りまでの個別指導を充実させる。さらに、見方・考え方を働かせながら本時のめあてに迫ることが出来たかについても意識づけを図る。学び方に関しては、特に学び方のスキル「コミュニケーション」の視点で振り返ることを意識づける。また、参考になった他者の考えや見方・考え方、考えを確かなものにするために、他者とのように協働できたか・できなかったかなどを繰り返し振り返らせることで、学習内容の深い理解と学び方のスキル「コミュニケーション」の育成に繋げたい。

【見方・考え方】見方については、「空間」「時間」「相互関係」それぞれの視点で感覚的に資料を読み取り課題解決に向かうことができる児童はいる。しかし、どこに着目したのか尋ねると答えられないなど、自覚的に視点をもって資料にあたり、情報の収集・整理をすることができない児童が多い。考え方についても同様に、本時のめあてに対する考えとして質の高い内容を述べることはできるものの、どのように考え方を働かせたのか言語化できる児童は少ない。見方・考え方を「社会の目・考え方」として具体化したものをクラスルーム上で示したり、表出した児童の考えを価値づけしたり、質の高い考えが出せている時に意図的に共有したりするなどして、自覚的に見方・考え方を働かせながら情報を適切にまとめたり考えを説明したりする力を養ったり、多角的な思考や理解に繋げたりしたい。

3 本時の学習

(1) 本時の目標と学び方のスキルの具体

本時の目標	農家の人たちが行っている米づくり作業の工夫に着目して、安全や環境に配慮した米づくりを行うといった生産者の思いや願い、努力について考えている。	
本時における、児童の学び方のスキルの具体		
★1「コミュニケーション」	<ul style="list-style-type: none"> 「社会の目」「社会の考え方」を意識して、自分の考えを伝えたり分からないところを尋ねたりしている。 協働の中で、自分が調べたり考えたりしていない（できていない）視点を見つけて、自分の考えを確かなものにしていく。 	★2「振り返り」
	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解について、参考になった友達の考えや意識した見方・考え方をいれるなどしながら振り返っている。 学び方について、友達とのコミュニケーションにおける良かった点・次頑張りたい点を振り返っている。 	
本時において働かせる、児童の見方・考え方の具体		
米づくり作業の中の工夫を調べるだけでなく、その工夫が何のために行われているのか問いを持ちながら、工夫の中で心がけていることや、作業の課題と工夫との結びつきなどを考え、工夫の裏側にある生産者の思いや願い、努力に迫っている。		

(2) 本時の展開

過程	時間目安	児童の学習活動例 (◇予想される児童の発言や考え・発問 指示 説明 ◎主発問 ○深める発問 ★児童の学び方のスキル)	指導上の留意事項 (★スキル発揮に繋がる教師の支援、 ○教科の特質に応じた支援、○その他の支援)
導入 課題設定	5分	1 単元の学習課題を確認し、本時の課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習や単元の学習問題を授業に生かすことで、単元のつながりを意識づける。 米づくり作業の中の工夫と配慮に焦点化することで、学習の見通しを持つことができるようにする。
		2 本時のめあてを知る。 田植えから稲刈りまで長い期間があります。その間の作業で行っている工夫は、具体的にどのようなもので、どのようなことに心がけているでしょうか。	
【めあて】質の高いお米をつくるための工夫を調べ、農家の人々が大切にしていることを考えよう。			
展開 情報収集・整理分析	30分	3 米づくりの工夫について資料から読み取り、交流する。【情報収集】★1 ◇カモの利用 …除草剤を減らしたり栄養を与えたりするため。 ◇水の量の調節 …雑草がのびるのを抑えたり除草剤を減らしたりするため ◇黒酢の散布 …農薬を減らすため 【まとめと】 ◇(工夫)農薬や化学肥料を減らす …(目的)安全や環境への配慮	【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】 [社会の目(見方)] ・工夫・目的(～のため) ・生産者と消費者・良い点と悪い点 [社会の考え方] ・比べると?(比較) ・一言で言うと?(総合) ・工夫と○○を関連付けると?(関連づけ) ○「社会の目」「社会の考え方」を示すことで、自分なりの見方・考え方で資料にあたり、工夫の裏側にある生産者の思いや願いに迫ることが出来るようにする。 ○工夫(事実)から思いや願い(背景)に迫れるよう、児童が整理している情報や考えへの価値付けや思考の整理を必要に応じて行う。 ★1「コミュニケーション」 ○児童は自分の考えをFigjamやchat、スプレッドシートに記述するようにして、一人一人自分のタイミングで他者の考えを参照してもよいことを伝えておく。 ○児童の考えを教師が端末上で確認し、考えを把握しながら、考えの共有を意図的に促す。
		4 調べた工夫をもとに、農家の人たちの思いや願いについて深く考える。【整理・分析】★1 ・調べた工夫は、農薬や化学肥料を使った方が効率的な部分があります。何のためにこのような工夫をするのでしょうか。 ◇食べる人の健康に悪影響がでないようにするため。 ◇環境に悪い影響を与えないようにするため。	
終末 まとめ・表現	10分	5 Figjam上の個人のエスペースにまとめ、スプレッドシートに振り返りをかく。★2 【まとめ・表現】	【具体的評価規準】思判表①(方法:発言・Figjam・スプレッドシート) ○米づくりの作業における工夫から、環境や安全への配慮など、生産者の思いや願い、努力などを考えている。
		6 次時の見通しをもつ。	
【まとめ例】 例:農家の人々は、質の高いお米を作るために様々な工夫を行い、環境にやさしく、安全に食べてもらうことを大切にしている。			